

滋賀大学彦根キャンパス

私の好きな
まちなかスポット

滋賀大学彦根キャンパスは四季折々とも美しく、緑豊かな

ところですよ。

朝、私は職場に向かうキャンパスのケヤキのトンネルの中で大きく深呼吸をします。朝一番の空気は体中を浄化してくれます。そして仕事が始まり、昼から夕へと太陽の傾きとともにキャンパスの風景も変化します。

春、次々と花が咲き誇り、輝く若葉とともに新生を迎えてくれます。学生さんのいない夏休み、強烈な蝉の声と静かな緑陰が広がります。秋はデスクの窓からアメリカフウの鮮やかな紅葉を愛でるこ



とができます。葉も落ちて冬は針葉樹に雪が重なり、静かに春を待ちます。

この小さなキャンパスで、季節を待ったり惜しんだり、私の楽しみ事のひとつです。

(畑中真知子 彦根景観フォーラム会員)

LLPひこね「街の駅」からお知らせ

「五倍越え！戦国の道」ウォーク&

バスツアー



- ◆日時：10月31日(日)
- ◆集合&出発：南彦根駅、彦根文化プラザ、彦根商工会議所各7:30⇒彦根駅東口8時⇒帰着彦根駅18時
- ◆行程：関ヶ原・激戦地

跡一五倍峠(踏破)一甲良・高虎生誕地一豊郷・又十郎屋敷一高宮・小林家一彦根

◆募集人員：先着100名 ◆参加料：1,000円

生誕450年記念

「石田三成検定」と

琵琶湖一周のろし駅伝

- ◆日時：11月23日(火・祝)
のろし駅伝(佐和山天守跡)10:30
三成検定受付：13:00 開始：14:00
- ◆開催場所：佐和山城址一帯
検定会場：清凉寺、佐和山会館
- ◆募集：先着200名(要予約)受験料無料
- ◆試験：問題は三択100問、制限時間は60分
80点以上で合格。合格者には合格証及び記念品などを贈呈します。

※筆記用具(鉛筆+赤ペン必須)をご持参ください。

どちらも詳細は <http://machinoeki.info/> 予約、申込先: 0749-27-5058(ひこね街の駅戦国丸)

NPO 彦根景観フォーラム 入会のご案内

彦根景観フォーラムは、まちづくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、会社員、商店主、公務員などが集まり、それぞれの知恵と力を合わせて活動しています。詳しくは[ブログ](#)をご覧ください。

● [ブログ](http://hikonekeik.exblog.jp) <http://hikonekeik.exblog.jp> (彦根景観フォーラムで検索)

● 定例会 毎月第2水曜日 午後7時~9時 滋賀大学陵水会館 誰でも自由に参加できます。

● お問い合わせ：彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968/0749-27-1141 FAX 0749-27-1431
e-mail: hikonekeikan@hotmail.com まで



きらっと彦根 vol. 22

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2010年10月10日 通巻22号 編集/発行 NPO法人 彦根景観フォーラム

彦根景観シンポジウム

彦根・芹橋のまちづくりを考える

路地を活かした歴史的まちなみの 保存再生

日時：11月23日（火・祝）11時～16時半
場所：彦根四番町スクエア・四番町ダイニング
3階・多目的ホール（彦根市本町1丁目）

内容

- 第1部 彦根・芹橋の散策ツアー（11時～）
- 第2部 まちづくりシンポジウム（13時～）

●講演

「路地を活かした歴史的まちなみの保存・再生」

講師：西村幸夫 東京大学教授

●事例1 「路地を生かしたまちづくり」

講師：青木仁（TEPCO、滋賀大客員研究員）

●事例2 「法善寺横丁のまちづくり」

●意見交換「彦根・芹橋のまちづくりを考える」

司会 濱崎一志 滋賀県立大教授（建築史）

★主催：彦根辻番所の会、彦根景観フォーラム

★入場 無料 ★定員 100名



本年1月の彦根市主催「まちの活性化・都市デザイン競技受賞作品発表会」で講演される西村幸夫 東大教授

特集：路地を活かしたまちづくり

大阪・空堀地区の事例を通して

笠原啓史（彦根景観フォーラム会員・建築家）



7月の足軽辻番所サロンでは「大阪・空堀地区」の路地を活かしたまちづくりを学びました。

講師の笠原さんは、彦根出身で大阪で建築設計事務所を営まれています。

シンポジウムを前に、今回はこの講演を特集します。

路地（ろじ）とは何か

密集した市街地に形成される狭い道のことで、主に人や自転車が通る幅の道である。都市の下町や漁村に多く、物干し、お地藏さま、植木などが置かれ、住民の生活空間、人と人との交流の空間となっている。建築基準法では、幅員4m以下の場合には道路としていないため、路地は道路とは認められない場合もある。

路地の成り立ち

一口に路地といっても、その成り立ちは多様だ。

京都の路地は、平安京以降、貴族や武士の大きな屋敷区画を幾度か分割して小路をつけ屋敷を建て、さらに短冊状に分割して京町家特有の土地利用をする通路として形成された。

東京・向島の路地は、農地に関東大震災の罹災者が流入し長屋が一斉に建築された結果、従来のあぜ道が路地になってしまったものである。

大阪・空堀地区は、瓦土の土取場跡に長屋を建てて開発した地域で、表通りに面した長屋から裏長屋への通路が路地となったものである。（次頁に続く）

特集：路地を活かしたまちづくり
大阪・空堀地区の事例
を通して

- それぞれの彦根物語 76
- 多賀そばは、本当においしい！
- 一圓屋敷の屏風たち・特別公開
- 農家レストラン・ぷちオープン

- 私の好きなまちなかスポット
滋賀大学彦根キャンパス
- 五僧越え！戦国の道ツアー
- 石田三成検定・のろし駅伝